

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松 義人
印刷所：アド・アール株式会社
定 価：一部 30円



2017年 1 月 20日
第**404**号

襷を繋ぐ

法人本部

事務局長 池谷慎人

毎年恒例となっている東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)が、今年も年明けの2日と3日に行われました。

昨年の箱根駅伝で10以内に入りシード権を得た10チームと予選を勝ち抜いた10チームに加え、本選に出場が叶わなかった大学からの学生選抜チーム1チームの計21チームが出場し、東京(箱根間の往路(5区間)と復路(5区間))を5名ずつ10名の選手が襷を繋ぎ勝敗を競うレースです。

『たかが箱根駅伝、されど箱根駅伝』レース中には、後方から追い上げてきた選手による十人抜き、急な体調変化による失速などの思いもよらぬドラマが生まれ、レースの合間を見て過去の駅伝に関するエピソードが紹介されたりします。知らずのうちにテレビ画面を見入ってしまいます。

「東京箱根間往復大学駅伝競走に関する内規」第19条には、「先頭走者から20分遅れたチームは(中略)各中継所審判主任の裁定で、前走者が到着しなくても次の走者を出発させる。」と記されています。いわゆる「繰り上げスタート」と言われているものです。各中継所において先頭走者から20分が経過してしま

うと襷を付けた選手が中継所に着いても、繋ぐべく次の選手は既にいません。そんな光景を今年も幾度となく見ることに、何とも言いようのない切ない気持ちになりました。選手一人一人は、襷に託されたであろうチーム全体(応援してくれる方達も含めて)の思いを背負いながら「なんとか次の仲間繋ぎたい。自分の責任として繰り上げスタートだけは免れたい。」との一心で自分自身の限界と闘いながら走っています。そこには、順位などよりも遥かに大切な【宝もの】を自然と掴んでいるように思われ、その選手たちの姿を見るにつけ、とても深い感銘を受けます。

私事で恐縮ですが、今年はずっと小学校時代をよく知っている娘の同級生が箱根駅伝の選手として出場したこともあり、例年以上にテレビに釘付けになってしまい、多くの感銘とともに刺激と影響を受けました。

昨今、世間では社会福祉法人の在り方が厳しく問われてきており、その周辺を取り巻く状況や環境などあらゆることとが以前に比べると大きく変わってきています。そのような大きな変化を肌で感じ、戸惑いながら仕事をしている職員もいるはず。自分もその一人です。

今後、その傾向は更に顕著になるのは確実であり、実際に今年の4月1日には、社会福祉法の大幅な改正が待ち構えています。以下、社会福祉法の改正の

骨子です。

(二)部は、昨年4月1日に施行済)

①経営組織のガバナンスの強化

(理事・理事長に対する牽制機能の発揮、財務会計に係るチェック体制の整備)

②事業運営の透明性の向上

(財務諸表の公表等について法律上明記)

③財務規律の強化

(適正かつ公正な支出管理の確保、内部留保の明確化、社会福祉事業等への計画的な再投資)

④地域における公益的な取組を実施する責務

⑤行政の関与の在り方

(所轄庁による指導監督の機能強化、国・都道府県・市の連携を推進)などが盛り込まれており、今まで以上に社会福祉法人としての在り方が大いに問われていくことになり、社会的責任が重くのしかかってきます。

駅伝の選手が仲間のことを常に念頭に置き、色々な思いを背負いながら必死に襷を繋いでいくのと同じように、私たちも社会福祉法人としての在り方を見つめ直すとともに、小羊学園の理念に基づき責任をもって襷(事業)を次世代にきちんと繋いでいくという使命を果たしていかなければならないと感じています。

そして、できるだけ多くの人に襷を繋いでいきたいと思います。

イエス様のご降誕をともに祝う

小羊学園はキリスト教主義に基づき運営しています。イエス様の誕生日であるクリスマスは、各施設でもとても大事にしているイベントです。今回は、入所施設のクリスマスをご紹介します。

三方原スクエアのクリスマス

支援課長 舟橋 暢

12月25日の4週間前の日曜日からの期間をアドベント(待降節)と呼び、この頃から三方原スクエアもクリスマスに向けて本格的に準備を始めます。各ユニットやグループホーム、日中活動においてクリスマス裝飾が施されますが、その準備はできる限り利用者と共に、皆で来るキャンドルサービスやクリスマス会を心待ちにしながら気持ちを高めてゆくのです。それは昨年のクリスマスからの一年を平安に過ごせた想い。支えて下さった方たちとクリスマスの喜びを共に分かち合える喜びではないでしょうか。そして12月23日(金)三方原スクエアにてクリスマス会が行われました。3部形式のクリスマス会は午前中の1部に礼拝、2部に祝会、お昼からの3部は会食とお楽しみの時間に分かれています。礼拝は、正装をまとつての参加となります。遠州栄光教会の盛合尊至伝道師を招いて「お腹の中の祝福」のお話を聞

き、利用者の大好きで想いの詰まった讃美歌「おほしがひかる」や「きよしこのよる」を賛美しました。礼拝の中で捧げられた献金は、日本キリスト教社会事業同盟の社会福祉支援特別募金に送られ、各被災地の復興支援に充てられます。

祝会は、新人職員によるクリスマスソングの合唱が行われました。大勢を目の前にして練習通りの力が発揮できたかは解りませんが、緊張感を見せる表情にこれから小羊学園を支えて頂く期待と初々しさを感じました。新人アトラクションの次は「ウィングローズ」によるフルート、ピアノ、チェロによる3重奏でした。クリスマスソングメドレーやアベマリアなどの曲に聞き入りました。プロの演奏は格別です。間近での演奏は讃美歌の合唱と似ており、心を震わせます。親しみやすい曲目に会場は笑顔と拍手に包まれていました。

お昼からは各ユニットに分かれてバイキング形式の大変豪華なランチが振る舞われました。調理部がこの特別な日に合わせて美しく、心に残るメニューを毎

年考えてのご馳走です。皆で舌鼓を打ったことは間違いありません。そして最後はサンタクローズやトナカイの登場です。昼食の余韻もそのままに、プレゼントを持って玄関から登場するサンタに大歓声が上がります。利用者一人ひとりに手渡されたプレゼントは愛の形のひとクリスマス会が和やかに終わりました。

今年には保護者31名、外部からのお客様24名と共にクリスマス会を迎える事ができました。集まった全ての者が愛されている喜びを体感できる。そんなクリスマス会から、何気ない日々の小さな喜びを愛おしく、そして大切にできる心をもち続けたいと毎年思うのです。



「歌って、踊って、楽しいクリスマス」

支援センターわかぎ

生活支援員 田中 真菜美

12月21日(水)利用者・保護者様・他施設の皆様等100名以上が集い、クリスマス礼拝・クリスマス祝会が開催されました。

クリスマス礼拝は、浜北教会の大橋新牧師・大橋茉莉耶牧師をお迎えし、イエス様のご降誕を、紙本を使って分かりやすく説教して下さいました。讃美歌「きよしこのよる」「もろびとこぞりて」を皆さんで合唱し、クリスマスをお祝いしました。

クリスマス祝会では、就労B利用者のAさんによる素敵なピアノ演奏から始まり、毎年恒例、わかぎ職員によるわかぎバンドが、「ジングルベル」、「ガンダーラ」、「安奈」、「水戸黄門」を演奏し、大いに盛り上がりました。つづいて登場したのが、今年度よりわかぎの仲間に加わった、新人職員の皆さん。サンタやトナカイに仮装し、「赤鼻のトナカイ」の愉快なダンスを披露しました。

そして秋祭りではお馴染みの、「びわの実の会」様が、今回クリスマス祝会に初参戦してくださいました。サンタの衣装に身を包み、素敵なフラダンスや、「きよしのズンドコ節」のダンスを披露して下さいました。利用者の皆さんも一緒

に、楽しく踊っていました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後を締めくくって下さったのが、『グレイス・ゴスペル・クワイヤー』の皆様によるゴスペル合唱です。クリスマスソングを含む4曲を、力強い歌声と、素敵なハーモニーで歌い上げて下さいました。

クリスマス会は、利用者の皆さんが、毎年とても楽しみにしている行事です。よりよい物にしようと、昨年までの反省点を活かし、準備してきました。大きなトラブルもなく、無事やり遂げる事が出来ました。なにより、利用者の皆さんが、きらきらとした笑顔で、歌ったり踊ったりして楽しまれていた様子を見ることができ、とても嬉しく感じています。素敵なクリスマス会になりました。



つばさ静岡「みんなで創るクリスマス」

クリスマス会実行委員 片山 史哉

平成28年12月23日につばさ静岡にて入所部門のクリスマス会が行われました。当日は利用者、ご家族、ボランティア、職員の総勢250名が参加し、クリスマス会を盛り上げました。午前中はホールにて稲松理事長の説教で礼拝を執り行い、職員の有志によるクリスマスライブ、ミュージックビデオの上映、影絵などをみんなで楽しみました。午後は各ゾーンに分かれ、厨房職員による特製タイル料理を振る舞い、ゾーン毎にイベント(スライドショー、演劇、紙芝居、演奏、創作活動など)を行いました。

つばさ静岡は、私たち看護師、支援員だけでなく、医師をはじめ、リハビリ、厨房、事務職員、また通所職員、相談員など様々な職種で連携をとりながら、利用者の方々の生活支援に日々奔走しています。しかしながらご家族の目に入るのは主に直接処遇している私たちです。クリスマス会という多くの方が集まる場でつばさ静岡にはたくさん職員がいて、支え合いながら利用者の支援に向き合っていることを知ってもらいたく、「Merry Christmas Dance Carol 2016」と題して、全職員が参加するミュージックビデオの作成に挑戦しました。

9月頃から職員に周知し、はじめは「出来ない、難しい、動けない」などの声も聞かれましたが、クリスマス会が近づくにつれて職員の意識も高まり職員全員でクリスマス会を作るという一体感が生まれました。

その一体感が利用者にも伝わったのでしょうか。職員が練習している姿を見て、この職員こんなことするの？なんか真剣な顔してやってるぞ。とスツと目線を送ったり、顔を上げたりする様子が見受けられました。

各ゾーン、各部署で撮影には工夫を凝らし撮影場所や衣装、ダンスのアレンジを皆さんに楽しんでもらえるように努めました。編集にも多くの時間を費やし、ようやく完成の日を迎えました。ホールには後ろの方も見やすいように

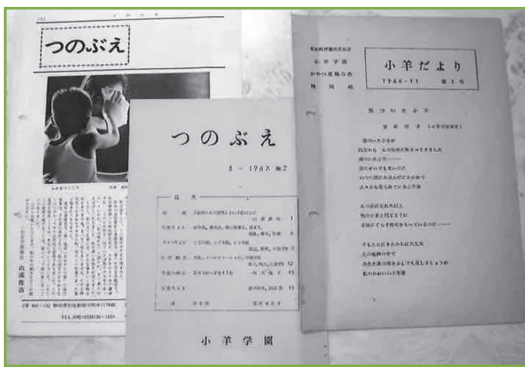
天井ギリギリの高さ3メートル、幅4メートルの大型スクリーンをレンタルし、大画面で見ることができるようになりました。ビデオ上映中の利用者やご家族の笑顔を見て私たちもやっつよかった達成感を得ることができました。

私自身、クリスマス会の実行委員を3年続けて担当しましたが、1年目はクリスマス会の力の人れ方に感動させられるばかりでした。しかし2年目、3年目とその感動を作る側にまわり、一つ一つの事を丁寧に、こだわって仕上げるよう心掛けました。周りの職員の志の高さにも助けられ、とても良いクリスマス会を作る事ができました。最後になりましたが、毎年多くのボランティアの方にご協力いただき、心より感謝申し上げます。



小羊学園50周年の歩み⑥

機関誌の歩みは、小羊学園の歴史そのもの。それぞれの時代背景や当時の考え方が、文章に色濃く綴られてきました。当初はおやつ里親の会機関誌「小羊だより」(1966年11月)として発行されました。「つのぶえ」の名前が初めて登場したのは、1967年で保護者向けの冊子でした。支援者など、多くの方に読んでいただく機関誌となったのは、1972年からスタートしています。山浦元理事長・稲松理事長の巻頭言は、実践にもとづく福祉観や宗教観、社会のあり方を問い、多くの読者に共感いただきました。



(左)機関誌第1号 (右)小羊だより
(中央)つづえ冊子

社会福祉法改正に伴う変更(案)承認 理事会・評議員会

平成29年4月からの社会福祉法改正に向けて、小羊学園では定款変更(案)の承認、および評議員選任・解任委員会の設置(案)の承認のための、臨時理事会を1月14日に開催し、承認を受けました。今後、所管である浜松市に定款変更提出をし認可後、具体的な手続きを進めていきます。

1面で法人事務局長が報告されているよう、社会福祉法人のガバナンス強化・透明性確保に一層努めてまいります。

福祉の担い手 募集しています

社会福祉法人小羊学園では、引き続き障害児・者福祉に興味のある方、働いてみたいという方を募集しています。

読者やお知り合いの方で、小羊学園の仕事に興味がある方おられましたらご連絡ください。

○小羊学園法人本部
担当 池谷・福地
053-584-3337



浜松中区・南区の土地情報下さい

小羊学園では、近い将来に浜松市中・南エリアの拠点整備を検討し始めたところです。しかし、施設整備の財源が厳しい現状です。土地を購入できるゆとりがありません。読者の方やお知り合いの方がおられましたら、ぜひご紹介下さい。

候補地

浜松市中区・南区

土地条件

500坪～1000坪程度
宅地／農地／雑種地問わず
隣接して6m道路
電線・水道管近くにあれば◎

貸与条件

可能であれば無償
貸与期間、固定資産税免除
建物借入金償還後に土地買い上げ交渉可能

窓口

小羊学園法人本部 稲松・池谷
053-584-3337



編集後記

冬將軍の到来時期がやってきた。世間ではインフルエンザも流行りだしているようなので気を付けたいと思う。

この数年、施設長の集まりで他法人の施設長さんとお話すると、どの法人も人材確保で苦労している。福祉で働く人手不足は深刻。厚労省データをみると、医療・福祉に従事する職員は、昨年より27万人増加。人手は増えても、需要に追いつけないのが実情ではないだろうか。団塊世代が75歳を迎える、2025年には、どうなってしまうのだろうか？

寒さに負けず、訪れる春を待ちわびましよう。

小羊学園を支える会

2016年度 寄付金報告

12月 受付分 2,476,800円 (173件)
累計 5,580,842円 (346件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337